

福島県 「水土里ネット矢吹原」～水の守人チャレンジャー～

役員：21人 職員：7人 組合員：2,151人 受益面積：1,535ha

1. 地域の概要

本地域は、福島県中通りの南部、県中地区の南末端からから県南地区に位置する。矢吹ヶ原台地の土壌は、保水力、保肥力が弱く、羽鳥疏水が完成するまでは著しく生産力の弱い地帯であったが、羽鳥疏水の完成により、生産力の弱い地帯が有数の米作地帯に生まれ変わった。

また、羽鳥疏水の取水源である羽鳥ダムは、アースダムでは全国屈指の規模を持ち、地元住民ばかりではなく福島県内の穴場的な存在として観光客も多く訪れている。

羽鳥疏水も築半世紀を超え、著しい老朽化が見えてきたことから、国営隈戸川農業水利事業（平成4年～23年）を実施し、基幹施設の全面改修が行われた。

2. 取り組みの背景、きっかけ

老朽化した羽鳥疏水の基幹施設を改修したいという組合員からの強い要望を受け、平成4年度に国営隈戸川農業水利事業が着工された。事業計画決定から着工、その後の2度に渡る計画変更により、当水土里ネットでは3度に渡る組合員の同意徴収が行われた。この3度に渡る同意徴収のための説明会を通し、役職員は羽鳥疏水の歴史、意義、役割等多くのことを再認識することとなり、わずか1か月で98%の同意率に達することになった。不況下において、事業への同意は組合員にとって大きな経済負担を伴うものであったが、短期間での同意徴収完了に組合員の羽鳥疏水への意識の高さを感じるものであった。この同意徴収を経て、役職員が羽鳥疏水の存在を地域に広めようと考え始めた時期と21創造運動が立ち上がった時期が重なり、当水土里ネットのソフト的な仕事の必要性を意識させるきっかけとなった。

3. 運動の基本理念等

役職員は羽鳥疏水の歴史、意義、役割等多くのことを再認識するところから同運動への取り組みがスタートした。当時としては実現不可能とまで言われた壮大な「西水東流」構想によって造成された羽鳥疏水には多くの想いが込められている。先人達から受け継いだ大切な遺産を守り、次の世代へと繋いでいくことは当水土里ネットの使命である。当水土里ネットにおける21世紀創造運動の一番大きな理念は、やはり「羽鳥疏水を守り、未来へ引き継ぐ」ための基盤づくりである。組合員の理解はもとより、地域の住民、そして将来を担う子供たちにまで広く羽鳥疏水を理解してもらうことが同運動の大きな目標である。

また、農業水利施設は住民の生活のための多面的機能を持つことが認められ、矢吹町民の歌の中で讃えられている羽鳥疏水が、精神的な面だけでなく、実質的な面でも、広く地域社会のための施設としての効果を発揮していることが確認されている。羽鳥疏水の重要性の理解をより深めってもらうことも目標となる。

なお、同運動の目標として、3.11東日本大震災以降、もう一つ重要な目標が加わった。羽鳥疏水の支線用水路、水田が壊滅的なダメージを受けてしまったために、組合員の多くの気持ち

切れかかっている。同運動によって当水土里ネット職員は高いマインドとプライドを保つことができているが、今後は、組合員にも同様に高い意識をもって、元気を出してもらおう働きかけていく。

4. 主な運動の概要(開始年)

①内部運動

○組合員、役員等への啓蒙活動(H15)

②外部運動

○出前授業、施設見学 「羽鳥疏水」(H18) ○田んぼの学校(H20)

○関係市町村の産業祭等への参加(H15)

5. 運動全体の成果と今後の展望

当水土里ネット職員においては、同運動の準備、活動から得たものは大きいと思える。羽鳥疏水の歴史、施設を守るための技術、現代の農業情勢、稲作に関する知識、そして、水田や水路の多面的機能等、説明のために調べたことがそのまま職員としてのスキル向上につながっている。また、同運動にとりくむことで羽鳥疏水、当水土里ネットへの理解が深まり、モチベーションも高まるといった効果も期待できる。

同運動にあたって、羽鳥疏水の歴史、水土里ネットの役割、農業施設の多面的機能等に特に焦点をあてて、農家、非農家への理解を深め、少しずつではあるが、効果を上げてきている。特に小学校の児童に対する出前授業、施設見学、田んぼの学校については特に手ごたえを感じており、今後も力をいれていきたい活動である。

同運動を当水土里ネットの基幹の業務として永く継続するためには、同運動は経常の業務としてとらえ、継続するための体制、予算、人材を確保していかなければならないと考えている。

3. 11東日本大震災によって壊滅的な状態に追い込まれたが、復旧の多くが応急工事、仮工事という状況であるがわずか1年で通水を再開させるに至った。完成当時、「命の水」とまで言われた羽鳥疏水の水が流れないということは組合員にとっても、地域住民にとってもありえないことであり、その想いの強さが伺われる。「羽鳥の水のせせらぎに、自然の恵み限りなし」と矢吹町民の歌に謳われる羽鳥疏水を守っていくために組合員、地域住民を繋ぐツールとして同運動をしつかりと行っていきたい。

